

10月の衛研検査情報

～トピックス～



医動物種類同定検査のまとめ

身近にいる害虫で「これは何だろう?」と思うものはありませんか。

虫の種類が分かれば、発生源や発生時期、人への害などが分かるため、効果的な対策を立てることができます。医動物担当では、各区福祉保健センターや事業者などの依頼を受けて、害虫類の種類同定検査を行っています。

今月号では、平成22年7月から9月に実施した種類同定検査の結果について、写真付で解説しています。

主な検査結果

種類同定検査を行った14検体のうち、昆虫類（ハチ目、ハエ目等）が11件(78.6%)でした。

食品等の苦情品検査

食品添加物担当では、異臭や異物混入などの苦情で各区福祉保健センターに届けられた食品等について、原因を探る検査を行っています。

今月号では、平成22年4月から9月に実施した食品等の苦情品の検査結果について、写真付きで解説しています。

主な検査結果

苦情品について原因究明のために実施した検査は28件、54検体（残留農薬関連を除く）でした。

細菌性食中毒検査結果

この夏に食中毒の報道を聞いた方も多いと思います。細菌担当では、食中毒やその疑いで回収された食品を検査し、食中毒かどうかの判定や、食中毒であった場合はその起因菌を調べています。

今月号では、平成22年4月から9月に実施した細菌性食中毒の検査結果について解説しています。

主な検査結果

食中毒菌が検出された40事例のうち、起因菌の第1位はカンピロバクター（11事例）でした。

農作物の残留農薬検査

毎日食卓に上る野菜や果物を育てるときには、一般的に農薬が用いられます。食品に残留する農薬の許容量は、農薬や農作物ごとに厚生労働省によって定められています。微量汚染物担当では、市内に流通する農作物等に残留する農薬が厚生労働省の基準を満たしているかを検査しています。

今月号では、平成22年6月から8月に実施した残留農薬の検査結果について解説しています。

主な検査結果

今回の検査では、残留農薬の基準値を超えるものはありませんでした。



詳しくは横浜市衛生研究所ホームページを御覧ください
http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/inspection_inf/



横浜市衛生研究所では、所内で行われた試験検査等の結果に解説を加え、毎月、「検査情報月報」として報告しています。